

# 公益社団法人日本学生陸上競技連合 2022年度（令和4年度）事業報告（案）

## 【概要】

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症は、弱毒化の一端を垣間見るも、本年もその対策に重点を置いた活動となり、まだまだ影響が残る1年となった。

本連合の事業については、有観客の競技会運営、対面による理事会など、制約を緩和しつつ、コロナ禍前の運営を目指した1年でもあり、多くの事業は緩和に向けた計画通りの実施となった。一方、世界大会の派遣に関しては、FISUワールドユニバーシティゲームズ（2021/成都）（以下WUG）が再び延期されたこと、今回の延期決定のタイミングは、選手・スタッフが内定した後であったことや、選考の段階において、世界陸上と両方を目指す学生選手にとっては、渡航日程が確定しないなどの不安要素が存在し、中国における開催の難しさが露呈した形となった。また、東京オリンピック延期の関係で、世界陸上競技選手権が1年遅れで2022年7月に米国のオレゴン州ユージーンで開催され、満員の観客が見守る中、多くの学連OB、現役学生選手が活躍した。

## 【公1-競技会】

2021年から延期となっていたWUG/陸上競技（6月30日～7月5日に開催）の日本代表選手選考のため、通常6月に開催する日本学生陸上競技個人選手権大会を4月へ移動した。競技会後に日本代表選手・役員を内定したものの、再び延期となったため、残念ながら内定をすべて解くこととした。また、従来7月に開催していた実業団・学生対抗陸上競技大会は、WUGや世界陸上のスケジュールを考慮し、8月1週に開催した。天皇賜盃第91回日本インカレは、京都市、たけびしスタジアム京都にて、69年ぶりに開催した。コロナは収束していない状況であったが、3年ぶりに有観客として開催、多くの入場者をお迎えし、盛会のうちに無事終了した。

10月に入り、ロードレースの幕開けとなる第34回出雲駅伝は、昨年に引き続きコロナ禍での開催となった。恒例となっていた歓迎レセプション、さよならパーティーなど、人気のサブイベントは時期尚早と判断。また、長年続いているIVYリーグの招聘も昨年に引き続き断念した。10月30日開催の全日本大学女子駅伝、11月6日開催の全日本大学駅伝、12月30日開催の全日本大学女子選抜駅伝（富士山女子駅伝）の3つの駅伝は、コロナ感染症対策を講じながらも駅伝ファンや応援団に配慮しながら、より通常開催に近づける運営で実施した。地元の理解や多く関係者の努力によって無事終了することができた。

2023年に入り、WUGが再延期となったことから、再度ロード種目の日本代表選手選考競技会としての準備をおこなった。皮切りとなる3月12日開催の第26回日本学生ハーフマラソン選手権大会（男子）は、立川シティーハーフマラソン大会との併催で実施。標準記録も設定しない従来の形でエントリーを受け付けた。予定通り3名のWUG日本代表選手を内定した。続く3月19日、松江レディースハーフマラソンは4年ぶりの開催となり、併催として第26回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会を実施し、男子同様3名の日本代表選手を内定した。また、同日に開催した全日本能美競歩/第17回日本学生20km競歩選手権も予定通り開催し、男子3名の日本代表選手を内定した。

## 【公2-育成】

育成事業においては新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続き海外派遣事業は時期尚早と判断、国内大会のクロカン日本選手権（併催）、東京マラソン学生エリート選手推薦は予定通り実現した。

審判員育成については、各地区において通常の講習会も実施されるようになりB級審判の養成、資格取得は順調に回復した。

指導者会議については、本年度68回を数え、2年連続Web会議システムにより実施していたが、本年は対面による開催とZOOMを併用して実施した。

テーマは、①【日本陸連の指導者養成の方向性について】山本浩先生（法政大学教授、日本陸上競技連盟 指導者養成委員長）②【裁判例に学ぶ陸上競技の安全対策】工藤 洋治先生（弁護士 本連合 常務理事）

## 【公3-調査研究】

調査研究事業においては、本年もtoto助成金をいただき、年3回の陸上競技研究の発行を無事終えた。共催の陸上競技学会については、昨年のオンラインの開催から今回は対面開催に戻って実施された。

## 【法人管理部門】

令和4年度の重要会議について、感染症対策の観点で、5月開催の第53回理事会はZOOMによるWeb会議とした。6月開催の定時社員総会およびその後の54回理事会については、役員改選のための会議であったことから、感染状況も判断材料に加え、対面による実施とした。この定時社員総会と理事会の決定により、令和4年度、5年度は、松本会長を中心に新しい体制でスタートすることとなった。日本インカレ前に開催する理事会（55回）は京都市で開催。12月の第56回理事会は日本学生新記録章の表彰も兼ね、都内の会議室にて開催した。本年度最終の第57回理事会は、コロナ感染症の影響も和らいだと判断し、新宿の会議室を利用し、対面およびZOOMの併用にて開催した。

日本学連の活動において重要な立場にある学生役員のための第48回幹部役員研修会は、3年ぶりに対面にて開催した。1泊2日の日程となったが、今回はコロナ前の3日間研修を目指し、より充実した研修を実現したい。

## 【普通会员の登録数】

令和4年度、普通会员登録者数は18,959名となった。令和3年度は18,567名であったことから、400名弱の増員となった。令和2年度の対前年2000名を超える減少から少しずつ回復している状況となっている。20,000名の回復に向けては、少子化の影響も懸念されることから、何らかの努力も必要になってくると思われるが、まずは新型コロナウイルス感染症が収束し、ウイズコロナの中で日本学連の理念でもある「向上と進展」の精神のもと、さらなる増員を目指したい。

## (1) 公1&lt;競技会&gt;

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2022日本学生陸上競技個人選手権大会	2022年 4月15日(金) ～17日(日)	レモカスタジアム平塚 *ハンマー投げ/茅ヶ崎/柳島 スポーツ公園	男子18 女子18	男:82校/505名 学連以外/26名 女:78校/519名 学連以外/23名	大会新(8)大会外(2) 林-ツ振興基金助成金事業
2	(2022オールスターナイト陸上) 秩父宮賜杯 第62回実業団・学生対抗陸上競技大会	2022年 8月6日(土)	平塚市 レモカスタジアム平塚	男子10 女子9	51名 51名 (オープン参加は含 まず)	実業団186点男子96点女子90点 学生180点 男子97点女子83点 総合優勝チーム:秩父宮賜杯、 内閣総理大臣杯 男子優勝チーム:文部科学大臣杯 女子優勝チーム:厚生労働大臣杯 大会新(4)、大会外(1)
3	天皇賜盃 第91回日本学生陸上競技対校選手権大会	2022年 9月9日(金) ～11日(日)	たけびスタジアム京都	男子22 女子22	143校…1403名 117校…954名	男子優勝校 順天堂大学(68点) 女子優勝校 日本体育大学(77点) 大会新(4)
4	第34回出雲全日本大学選抜駅伝競走	2022年 10月10日(月/祝)	出雲市 45.1km 6区間		国内…20チーム	優勝 駒沢大 2時間08分32秒 2位 青山学院大 2時間09分24秒 ※優勝チームには内閣総理大臣杯、 文部科学大臣賞を授与
5	第40回 全日本大学女子駅伝対校選手権大会	2022年 10月30日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内・25校+1チーム (東北選抜)	優勝:名城大2時間03分11秒 (6年連続7回目) 2位 立命館大 2時間05分42秒 ※優勝チーム:文部科学大臣杯を授与
6	秩父宮賜杯 第54回全日本大学駅伝対校選手権大会	2022年 11月6日(日)	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間		国内・25校+2チーム (東海選抜/全日 本大学選抜)	優勝 駒沢大 5時間6分47秒/大会新 (3年連続15回目の優勝) 2位 国学院大 5時間10分08秒/大会新
7	2022全日本大学女子選抜駅伝競走	2022年 12月30日(金)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…22単独チ ーム+全日本大学選 抜+静岡県選抜) 計24チーム	優勝 名城大 2時間21分56秒 2位 大阪学院大 2時間25分07秒 ※優勝チーム:文部科学大臣杯を授与
8	第26回日本学生ハーフマラソン選手権大会 兼ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2023年 3月12日(日)	立川市		エントリー:1487名 完走:906名	優勝:篠原倅太郎(駒澤大)1.02.16 2位:吉田礼志(中央学院大)1.02.29 3位:松永 伶(法政大)1.02.43
9	第17回日本学生20km競歩選手権大会 兼ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2023年 3月19日(日)	能美市		男/エントリー:56名 女/エントリー:29名	男子優勝 萬壽春輝(順天堂大)1時間20分15秒 女子優勝 柳井綾音(立命館大)1時間30分58秒
10	第26回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会 兼ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2023年 3月19日(日)	松江市		エントリー:86名 完走:50名	優勝:北川 星瑠(大阪芸大)1:10:50 /大会新 2位:永長里緒(大阪学院大)1:11:03 3位:原田紗希(名城大)1:11:12
11	2022年日本学生記録年鑑の発行	2023年 3月31日発行			1000部発行 主催競技会の記録、2022年50傑、歴代10傑他	

## (2) 公2&lt;育成&gt;

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	秩父宮賜杯 第75回西日本学生陸上競技対校選手権大会	2022年 7月1日(金)～ 3日(日)	愛媛県総合運動公園陸上 競技場	日本学連が共催。 競技者育成を目的とし、補助金支給
	第44回北日本学生陸上競技対校選手権大会	2022年 7月2日(土) ～3日(日)	札幌市厚別公園陸上競技場	日本学連が共催。 競技者育成を目的とし、補助金支給
2	日本学連栄章贈与式/諸記録章 (日本学生新記録)	2022年 12月17日(土)	東京/新宿(TKP)	①不破 聖衣来(拓殖大学)10000m/30分45秒21 2021/12/11 関西実業団ディスタンストライアル ②吉村 玲美(大東文化大)3000mSC/9分39秒86 6/11 第106回日本陸上競技選手権大会 ③船田 茜理(武庫川女子大)三段跳/13m81 8/7 第17回トワイライト・ゲームス

3	第106回日本陸上競技選手権大会クロスカン トリー競走（日本学連共催）	2023年 2月26日（日）	福岡市/海の中道海浜公 園男子12km, 女子8km	男子最高：三浦 龍司（順天堂）学生1位 連合杯獲得 ※ 29分28秒（日本選手権2位） 女子最高：北川 星瑠（大阪芸大）学生1位 連合杯獲得 ※ 27分28秒（日本選手権4位）
4	第68回指導者会議	2023年 3月4日（土）	TKP新宿/ ZOOM 併催	①【日本陸連の指導者養成の方向性について】山本浩先生 （法政大学教授、日本陸連指導者養成委員長） ②【裁判例に学ぶ陸上競技の安全対策】工藤洋治 先生 （弁護士 本連合 常務理事）
5	東京マラソン2023 選手推薦	2023年 3月5日（日）	東京	新型コロナウイルスの影響によりエリート選手のみ推薦（4名）。 山野 力（駒澤大）、中山 雄太（日本薬科大） 嶋津 雄大（創価大）、佐藤 颯（亜細亜大）
6	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
7	ドーピング・コントロール・テスト	3回	各地	検査実施大会（日本学生個人、日本IC、全日本大学女子駅伝）
8	知っておきたい アンチ・ドーピングの知識2022発行	2022年1月1日	日本学連ホームページに公開	日本学連医事委員会編集

(3) 公3<調査研究>

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	日本陸上競技学会共催（第21回）	2023年 2月22日（水） ～23日（祝）	日本体育大学	テーマ：陸上競技の強化と科学 温故知新
2	研究調査『陸上競技研究』の発行	年3回/129～131号		(ISSN 0919-9918) 日本学連調査研究委員会 2022/6/30、10/31 2023/2/28発行 ※スポーツ振興くじ助成金事業

(4) 法人管理部門<組織力管理>

No.	事業	期間・回数等	摘要
1	理事会の開催	4回	第52回（4月18日） 第53回（5月14日） 第54回（6月18日） 第55回（9月8日） 第56回（12月17日） 第57回（3月4日）
2	定時社員総会の開催	1回	第14回定時社員総会（6月18日）、 ※令和4年度、5年度役員選任
3	会員の入会受付	2022年度	名誉会員 40名 正会員 135名 普通会員（学生） 18,959名
4	公認競技会開催申請及び記録公認申請	2022年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付/日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付/日本陸連申請
5	会報の刊行	3回	各回 1,000部（名誉会員、正会員、役員、委員会委員 賛助会員 地区学連加盟校に配布） 5月、10月、1月
6	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
7	2022学生役員会議	2022年 12月17日（土）	1回開催（東京） 参加対象：各地区学連幹部学生役員
8	第48回学生幹部役員研修会	2023年 3月3日（金）～ 4日（土）	オンラインシステムにて開催。参加対象：令和5年度各地区学連三役
9	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載（各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆）